

港湾局長の海外出張について

平成30年度の港湾局長の海外出張についてお知らせします。

1 出張者及び出張先

出張者： 港湾局長 斎藤 真人

出張先： シドニーハーバー、ボタニー港、メルボルン港

2 出張期間

平成31年1月26日(土曜日)から同年1月31日(木曜日)まで(3泊6日)

3 出張用務

シドニー及びメルボルンの港湾管理者等を訪問し、管理や運営に関する情報を収集するとともに、東京港のPR活動を行う。

4 経費

570,470円

5 同行者数

2名

6 出張先での行動

1月26日(土曜日)

移動日(成田→シドニー、機内泊)

1月27日(日曜日)

シドニーハーバー視察

1月28日(月曜日)

ホワイトバイクルーズターミナル訪問

(港湾管理者及び客船会社との意見交換、ホワイトバイクルーズターミナル視察)

1月29日(火曜日)

ボタニー港訪問

(港湾管理者及びニューサウスウェールズ州運輸省との意見交換、コンテナターミナル等視察)

移動(シドニー→メルボルン)

1月30日(水曜日)

メルボルン港訪問

(港湾管理者との意見交換、コンテナターミナル等視察)

メルボルン日本商工会議所訪問

1月31日(木曜日)

帰国日(メルボルン→成田、機内泊)

7 出張の成果

(1) シドニーハーバー

シドニーフェリーの発着拠点であるサーキュラーキー及び港湾施設跡地の再開発が進められているバラングルー地区の視察を行った。シドニーでは、フェリーが電車やバスと同様に公共交通機関の一つとして市民や観光客の重要な足となっており、湾内はフェリーや水上タクシー等多くの船舶が行き交い、水辺周辺は非常に多くの人々で賑わっていた。今後都が舟運の活性化を進めていく上で大変参考となった。

(2) ホワイトベイクルーズターミナル

クルーズ客船の受入に関する港湾管理者との意見交換及びターミナル内の視察を行った。シドニーでは、2か所のクルーズ客船専用ターミナルで、昨シーズン352隻のクルーズ客船を受入れており、東京港のクルーズ拠点港化を推進するに当たって大変参考となる有意義な意見交換を行うことができた。

また、当日ホワイトベイクルーズターミナルに停泊中の客船「Pacific Explorer」(カーニバルオーストラリア社運航)の視察を行うとともに、同社が運航する客船について情報収集を行った。

(3) ボタニー港

港湾管理者及び港湾の渋滞対策を担うニューサウスウェールズ州運輸省と、それぞれの取組について意見交換を行った。かつてボタニー港では港湾周辺の渋滞や荷役の非効率性が大きな課題となっていたが、州政府が民間企業と共同でタスクフォースを結成し、コンテナターミナルの整備やステベドアとトラック事業者間における罰金制度の導入等の様々な取組を進めた結果、渋滞が改善され、取扱貨物量の増加につながったとのことであり、交通混雑が課題となっている東京港にとって極めて参考となる取組であった。

また、港湾施設の視察を行い、Patrick コンテナターミナルにおける自動荷役の導入や今後の整備計画について話を伺った。

(4) メルボルン港

港湾管理者と港湾経営等に関する意見交換を行うとともに、港湾施設の視察を実施した。

コンテナ貨物取扱量が国内1位の港であるメルボルン港は、人口増加に伴い今後も取扱貨物量が増加していくと予測しており、船舶大型化への対応等、荷役の効率性や生産性の向上に積極的に取り組んでいる。今後の貨物増加に伴い交通混雑等の発生が懸念されていることから、鉄道による貨物輸送も積極的に進めていくとのことであった。

また、オーストラリア初の全自動化ターミナルである Victorian International Container Terminal を訪問し、認証ゲートの運用状況やトラックへの貨物積載等の荷役作業を視察するとともに、自動化された荷役機器の導入効果等について意見交換を行い、大変参考となった。

さらに、メルボルン日本商工会議所を訪問し東京港の PR を行うとともに、オーストラリア国内の貿易動向の最新情報について話を伺った。

8 お問い合わせ先

港湾局港湾経営部振興課

03-5320-5529